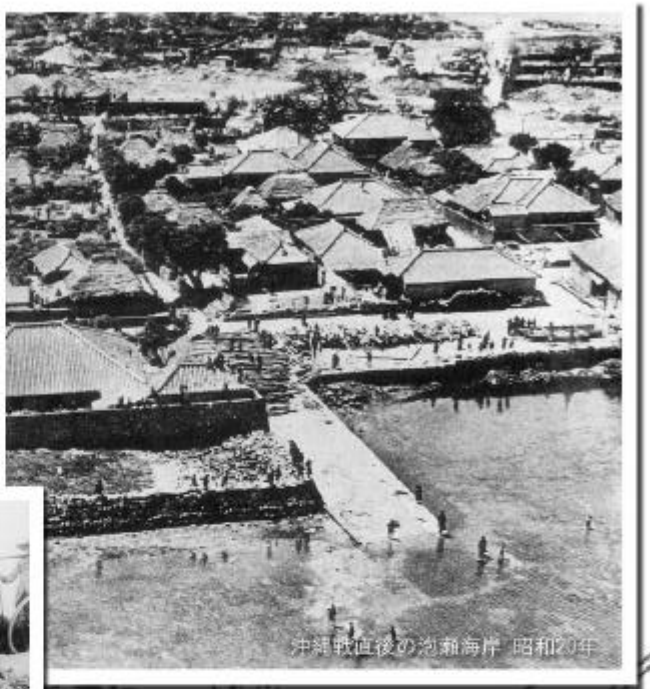
参考資料－ 1

泡瀬の今と昔

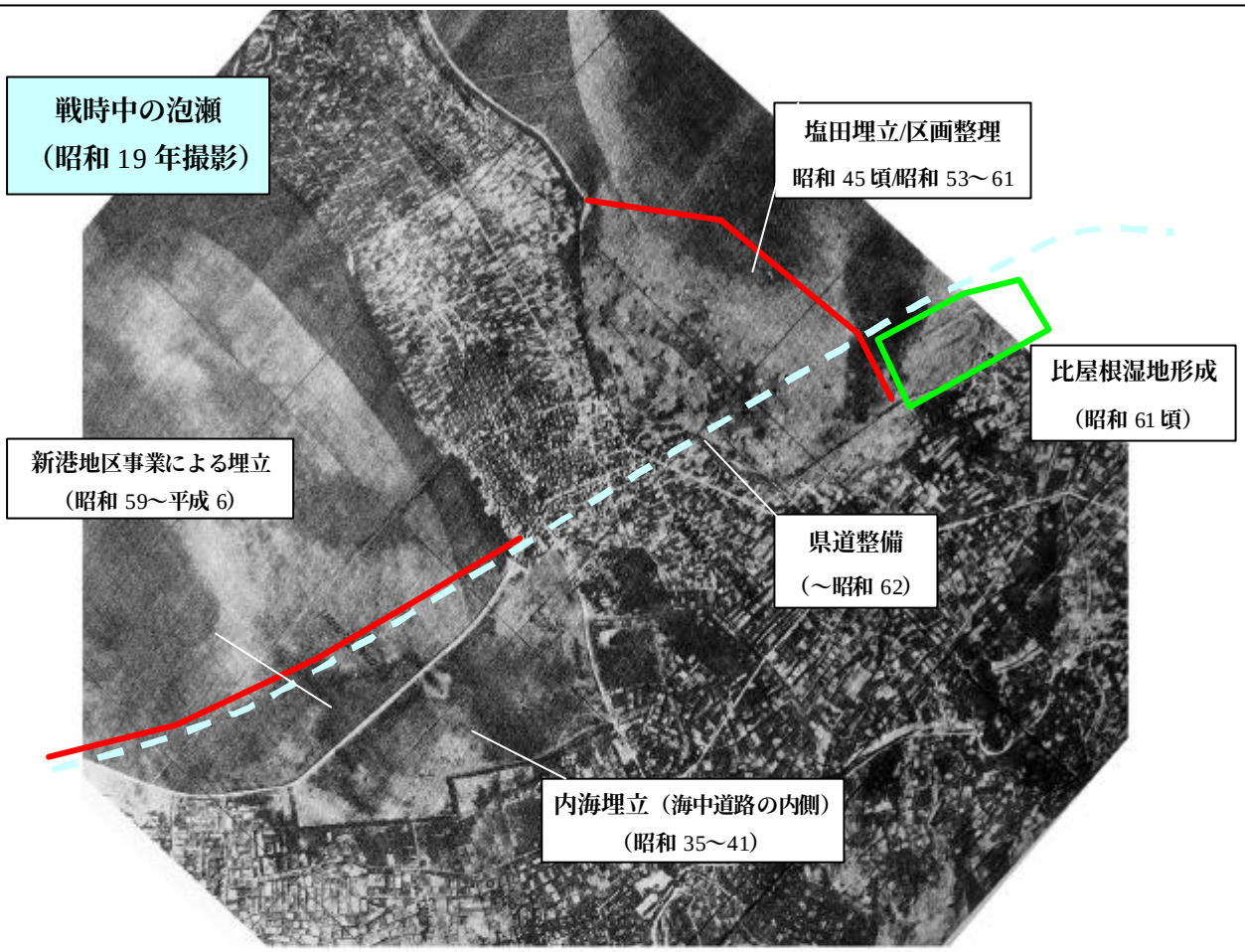
泡瀬海岸の変遷と比屋根湿地



資料出典：ふるさと泡瀬（泡瀬復興期成会）他

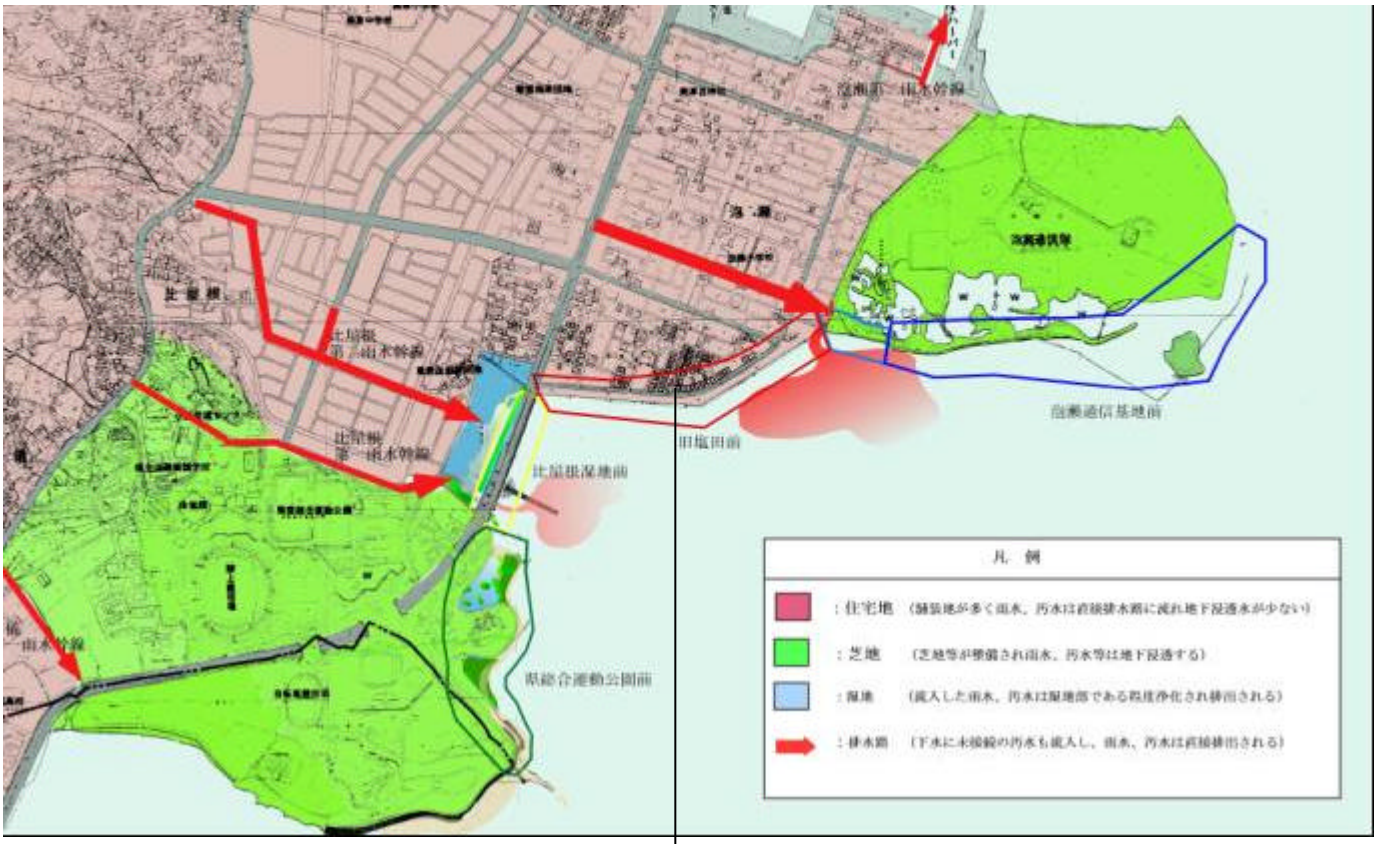
泡瀬海岸の変遷

- 泡瀬地区は終戦とともにその大部分が米軍に接収され、住民は地区外への移住を余儀なくされた。
- ふるさとに土地を求める住民の熱意で内海埋立、塩田埋立などの事業が実施され、結果的に海岸線は大きく改変した。
- 昭和６０年代に入り、海邦国体に向けて市道が整備され、比屋根湿地が形成された。

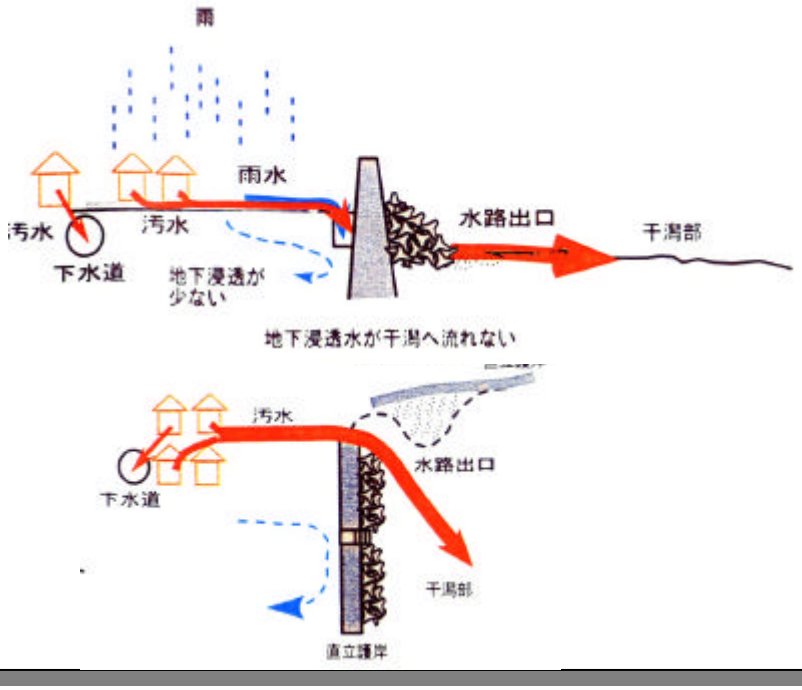


海岸線の現状と汚濁負荷の流入

- 埋立や県道の整備などに伴って泡瀬の自然海浜は一変したが、総合運動公園前には連続した海浜植生など、原風景の面影を残した箇所が存在する。
- 旧塩田前（民間埋立）は直立護岸と消波ブロックの設置や、三面張排水路の整備などにより、雨水が浸透しなくなり汚水の一部が直接海域へ流れ出ている。

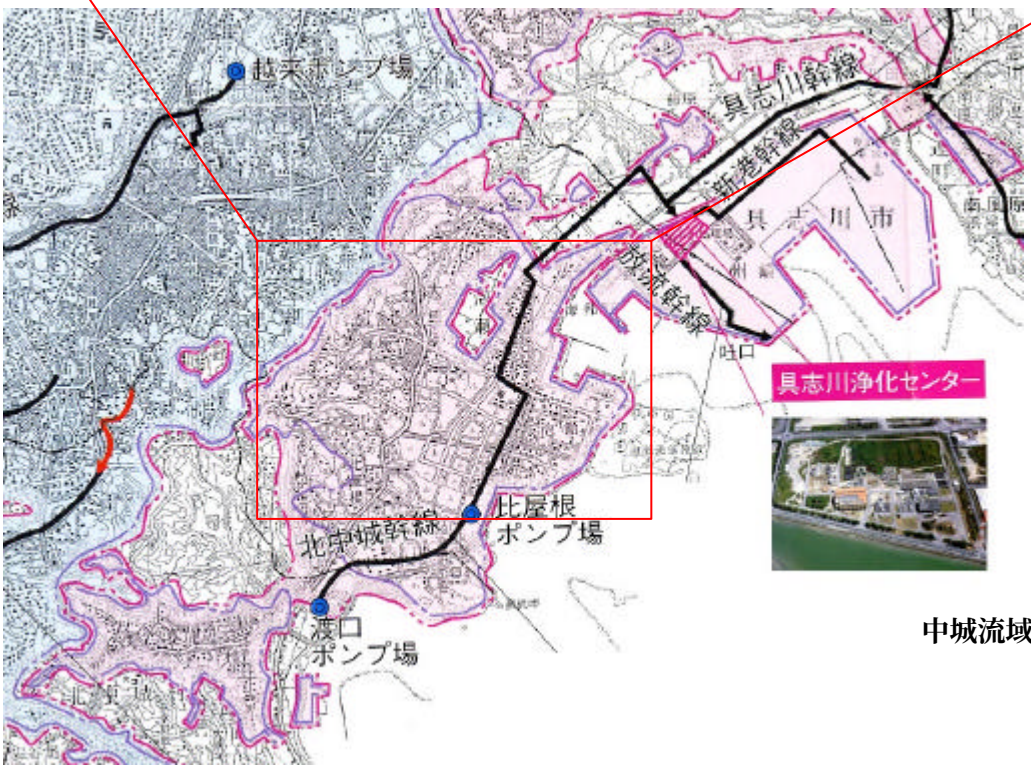


旧塩田前海岸の現状と
汚濁流出メカニズム



雨水・汚水の排水系統

- 泡瀬地区の生活排水は公共下水道（汚水）から中城流域下水道幹線を経由して、具志川浄化センターで処理される。
- 公共下水道に未接続の生活排水は、三系統の雨水幹線を通じて海域に排出されている。



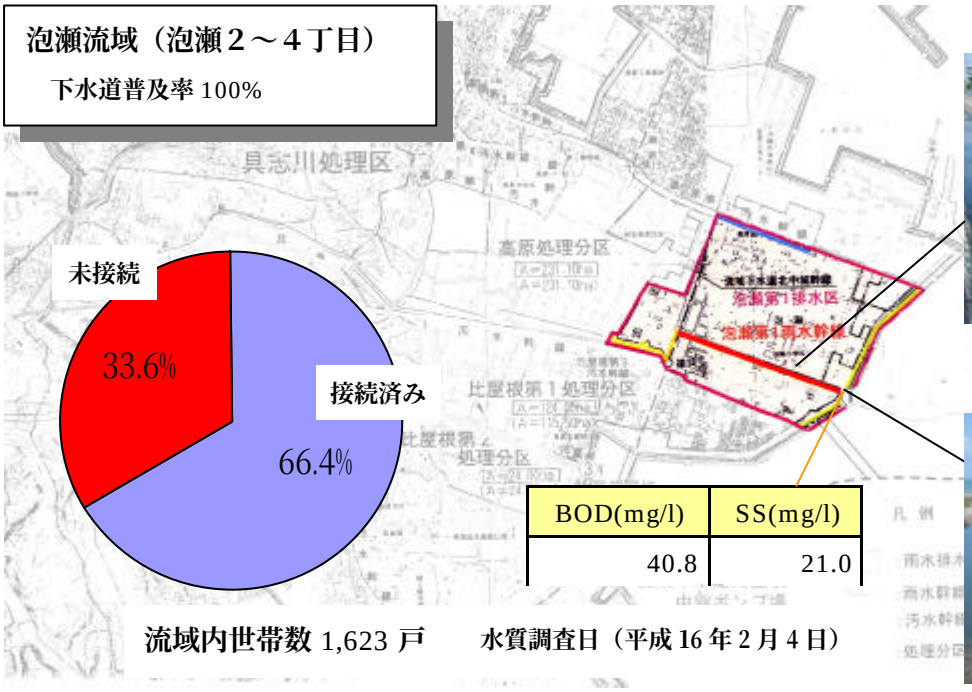
中城流域下水道幹線配置

下水道の接続状況と水質

- 泡瀬地区（２丁目～４丁目）の泡瀬第１排水区の流域内では公共下水道（汚水）の整備は完了しているものの、地区住戸の凡そ３分の１は公共下水道に未接続であり、そのため生活雑排水が海域に流出している。
- 比屋根湿地に流下する比屋根排水区の流域内では、上流域において公共下水道（汚水）の整備が完了していない（平成１９年度完了予定）ことに加え、未接続住戸も多く、下水道接続率は全体の５割に満たない。

泡瀬流域（泡瀬２～４丁目）

下水道普及率 100%

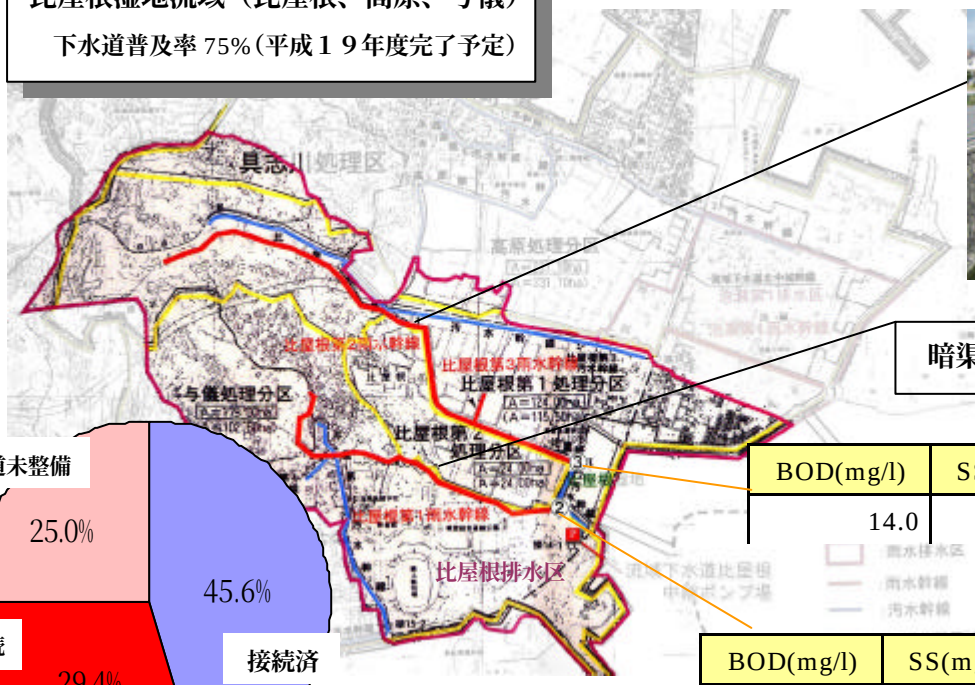


BOD(mg/l)	SS(mg/l)
40.8	21.0

流域内世帯数 1,623 戸　　水質調査日（平成 16 年 2 月 4 日）

比屋根湿地流域（比屋根、高原、与儀）

下水道普及率 75%（平成１９年度完了予定）



暗渠

BOD(mg/l)	SS(mg/l)
14.0	6.6

BOD(mg/l)	SS(mg/l)
10.0	3.4

流域内世帯数 1,712 戸

比屋根湿地の形成

- 比屋根湿地はかつて泡瀬干潟の一部であった海面が市道建設に伴って海域から切り離されて出来た湿地である。
- 比屋根の北東側は早い時期から陸地化が進み、葦などの植物が繁茂する一方、ゴミの不法投棄や悪臭などの環境問題が生じている。

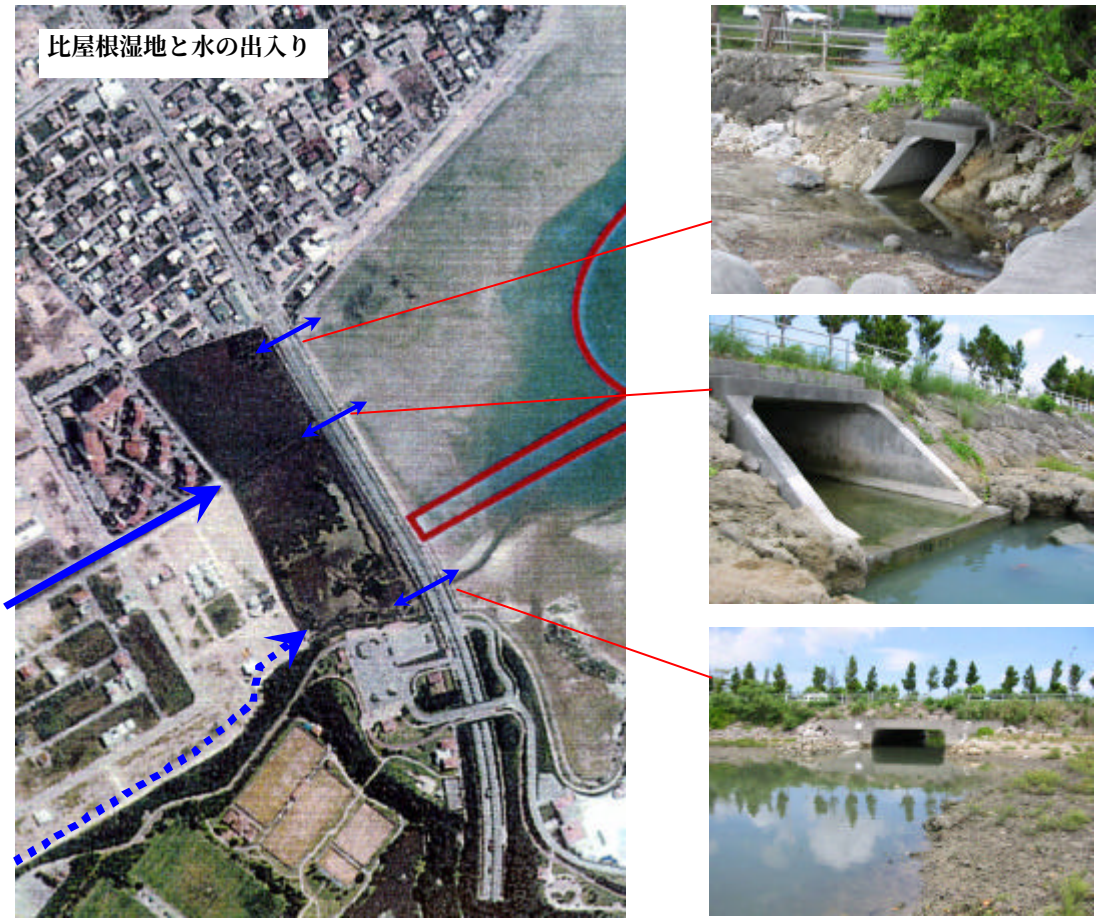
1977（昭和52）年

1986（昭和61）年

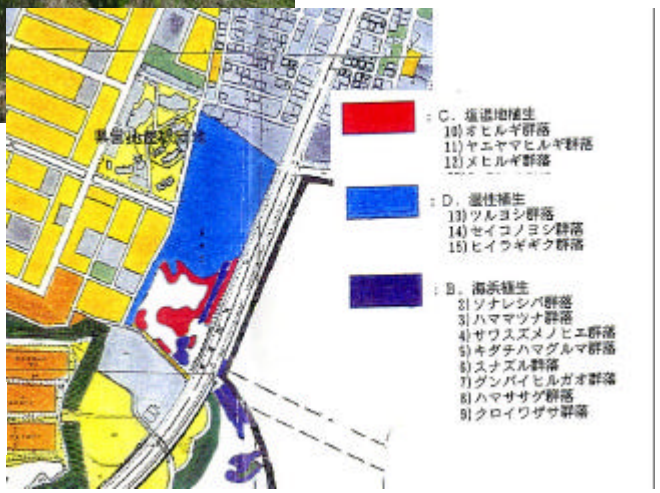
1990（平成3）年

比屋根湿地の現況

- 湿地は二系統の雨水幹線で上流域と通じ、海とは三カ所のボックスカルバートで通じている。
- 南西側はマングローブが繁茂するとともに、多様な汽水域の生物が生息しており、野鳥の採餌休憩の場として利用されている。



運動公園から見た比屋根湿地（平成 16 年 4 月）



比屋根湿地の植生（環境アセス評価書より）